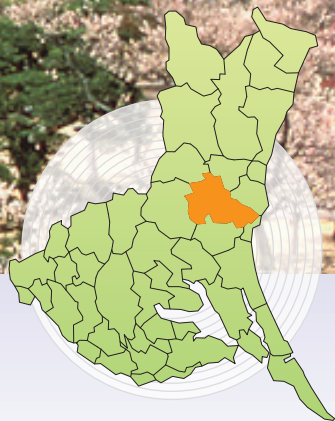


## 茨城県水戸市

光圀公、斉昭公から引き継がれる文化の気風あふれるまち

偕楽園 写真提供：水戸市



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第18回は、水戸市です。筑波銀行は、水戸市内に9カ所の営業店を設置し、水戸市の皆さまと密接な関係を築いています。水戸営業部長の杉山勉が、水戸市長 高橋靖氏にお話をうかがいました。

### ●水戸市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか。

水戸市は、徳川の世に、御三家のひとつである水戸徳川家の城下町として繁栄してきたまちで、明治22(1889)年に全国ではじめて市制が施行され、茨城県の県庁所在地として発展してきました。

水戸市は「歴史のまち」であるとともに、野鳥の多く集まる千波湖をはじめ、豊かな自然に恵まれた魅力あるまちです。また、それだけではなく、文化の成熟したまち、芸術に親しみ楽しめるまちでもあります。

その象徴が、平成2(1990)年に中心市街地に開館した水戸芸術館です。水戸芸術館は、音楽・美術・演劇の各部門で、市民と一体となった様々な取組を行っています。



水戸芸術館 写真提供：水戸市

音楽部門では、平成25(2013)年から館長を務める世界のマエストロ・小澤征爾さんが直接指導する小中学生吹奏楽クリニック、小澤さんが指揮を務める水戸室内管弦楽団の定期演奏会最終リハーサル(ゲネプロ)の見学ツアーや市民など300名以上の大合唱団がベートーヴェンの「第九」にのせて歌声をまちに響かせる「水戸の街に響け!300人の《第九》」など、様々な企画を行っています。

美術部門では、来年度、まちの中で身近にアートに触れることができる企画展「カフェ・イン・水戸R」が開催されます。日比野克彦さんをプロジェクト・ディレクターに迎え、地域の様々な文化を鑑賞・体験できる100のプログラムを展開する「RE MITO 100(リミット100)」などの企画を準備しています。また、毎年3月には、高校生の企画展無料招待や、学芸員がサポートしながら高校生主体で企画を作っていく「高校生ウィーク」なども行っています。

演劇部門では、ミュージカルから狂言・落語・浪曲などの伝統芸能まで多彩な演目を上演しながら、茨城ゆかりの若手アーティストを応援する「未来サポートプロジェクト」や、朗読・ソング&ダンスクラスなどの教育プログラムにも取り組んでいます。

余談ですが、大ヒット映画「アナと雪の女王」の主題歌、「♪ありのままで～」というフレーズで有名な「Let It Go」を日本語に翻訳したのは、平成25年4月に演劇部門の芸術監督に就任し、本市に在住する高橋知伽江さんです。

水戸芸術館では、こうした各部門の活動のほか、



多くの映画監督を輩出している市民団体による短編映画の祭典、「水戸短編映画祭」や市民の文化活動の発表会である「水戸市芸術祭」など多彩な活動が行われています。

また、水戸芸術館のほかにも、中心市街地には多くのライブハウスやクラブがあり、毎晩のように音楽が楽しめるほか、小中学校では吹奏楽も盛んで、毎年多くの賞をいただいています。三味線や太鼓などの和楽器も親しまれており、国の重要無形文化財である一中節の人間国宝・宇治文蝶さんも水戸市で活動しています。



杉山水戸営業部長

弘道館以来の伝統である武道も盛んです。千葉周作が創始し、坂本龍馬も学んだ「北辰一刀流」や和田平助が興した「新田宮流拔刀術」を傳承する「水戸東武館」のほか、古式泳法である「水府流水術」や「なぎなた」なども行われています。また、来年度本市で全国大会が開催される石州流をはじめとした茶道も盛んであり、華道や詩吟も高いレベルで行われています。

このような市民の文化に対する高い関心は、「水戸黄門」として有名な水戸藩第二代藩主・徳川光圀公と、幕末に活躍した第九代藩主・徳川齊昭公から引き継がれた水戸の気風です。

光圀公は、日本に亡命していた中国人の儒学者・朱舜水を招聘し水戸学の確立に努め、また、快風丸という当時最大の船を建造して蝦夷地（北海道）の調査を行うなど、最新の知見を集め、歴史編纂の事業を行いました。また、ラーメンや餃子を日本で最初に食すなど進取の気性に富む光圀公は、庶民の間にも名君として名高く、亡くなられた際は、「天が下二つの宝つきはてぬ 佐渡の金山 水戸の黄門」と詠われました。

また、齊昭公は天保12（1841）年に当時最大級の藩校である「弘道館」を設立し多くの人材を育てました。また、「一緊張一弛」（緊張と休養が適度に行われるのが文武の道である）の考えに基づき、



弘道館 写真提供:水戸市

弘道館と対になる休養の場として、天保13（1842）年に日本三名園のひとつに数えられる「偕楽園」を造営しました。

水戸市では、弘道館・偕楽園を「近世の学問・教育遺産」として、足利学校（栃木県足利市）、咸宜園（大分県日田市）と連携し、ユネスコの世界遺産への登録に向けて取り組んでいるところです。そして、2月から3月にかけての「水戸の梅まつり」においては、100品種・3,000本の梅が咲き誇り、早春の観梅を楽しみに多くの観光客が訪れています。

### ●今後の展望について教えてください

現在水戸市では、市民の皆様とともに作りあげた「水戸市第6次総合計画－みと魁プラン－」のスタートの年として、重点プロジェクトをはじめとした各種施策に精力的に取り組んでいるところです。

市民サービスの拠点である市役所新庁舎、そして、新ごみ処理施設、また、にぎわい・活力創出に向けた新たな市民会館、これら大型プロジェクトについては、本市にとって重要な課題であり、一日も早い完成が望まれています。市民の皆様をはじめ様々な方々からご意見ご提言をいただきながら、現在大きく歩を進めているところであり、今後においてもしっかりと財源を確保し、健全な財政基盤を堅持しながら、なお一層努力していきたいと考えています。

また、人口減少をはじめとする時代の様々な課題に対応していくためにも、本市では都市核を中心に都市中枢機能の集積を図るコンパクトな都市構造の確立とあわせ、効率的・効果的な行政運営に取り組んでいきたいと考えています。そして、市民の皆様と英知を結集し、歴史や自然、芸術・文化など水戸の魅力の向上と効果的な発信によって、にぎわいと交流を創出しながら、市民が安心して暮らすことのできる持続可能なまちを目指していきます。

### ●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

筑波銀行には、本市内での代表的な取組のひとつである「あゆみ杯茨城県学童選抜軟式野球大会」の開催により、未来を担う青少年の健全育成と、豊かな地域社会づくりに大いに貢献してもらい、大変ありがたく思っています。

今後も、筑波銀行のコーポレートスローガン「地域のために、未来のために」に基づき、革新的な取組を展開するとともに、引き続き、地域復興支援プロジェクト『あゆみ』の着実な実践を通して、地域経済の持続的な発展のために活躍することを期待しています。



高橋市長